

A LOT OF ...

一般社団法人 日本経済団体連合会

経済基盤本部 副本部長

長谷川 雅巳



“a slice of HOPE”と書かれた赤いTシャツを持っている。字体はとてもコミカルだ。一切れ(a slice)のスイカのイラストが添えられている。米国アーカンソー州ホープ市を訪問した際に買ったものだ。スイカはホープ市の特産である。

このTシャツの記憶にいざなったのはドナルド・トランプ氏である。氏曰く「メキシコ人判事」は自分の訴訟から外れるべきだ……。TPPは米国にとり災難である。対日自動車貿易は不公平だ……。こうした人種差別のおよび反自由貿易とも受け取れる発言に、選挙期間中、暗い気持ちにさせられたものである。

学生に同行しアーカンソー州を訪問したのは1993年のことだ。当時経団連は対米投資摩擦を緩和しようと、米国投資企業に対し良き企業市民として現地社会に溶け込むよう啓発活動を展開していた。その一環として、米国の社会問題に対する日本人の理解を深めるべく、米国公民権運動のビデオを全国の高校に配布し感想文コンテストを開催、入賞した学生を公民権運動ゆかりの地を巡るツアーに招待していたのである。

アーカンソー州での公民権運動といえば1957年のリトルロック事件だ。最高裁で人種分離教育が違憲とされ、州都リトルロックでも、それまで白人だけが通っていた高校で人種融合教育が決まった。しかし、いざアフリカ系アメリカ人学生が登校しようとする、欧州系住民からの嫌がらせに加え、州知事の指示で州兵が登校を阻止したのである。これを受け連邦政府は空挺師団を派遣、学生の登校・学校生活は厳戒体制の中で行われる事態となった。このリトルロック事件(1957年)も含め、多くの努力が積み重ねられ、公民権法が制定されたのは、ようやく1964年のことである。

アーカンソー州を訪問したもう一つの理由は、1993年の1月、46歳の若さで米国大統領に就任したビル・クリントン氏である。冒頭のアーカンソー州ホープ市は、同氏の故郷である。

クリントン政権は、少なくとも対日通商政策について言えば、極めて反自由貿易的なものであった。すなわち、日本に対し、セクター別に米国製品シェア等の数値を約束するよう迫ったのである。具体的には、医療機器・電気通信の政府調達、自動車・自動車部品、保険といった分野での数値目標の設定を要求したとされる。民間企業がプレイヤーである市場で政府がシェア等を約束するなど、自由貿易の立場からはありえない。しかし、クリントン政権は、日本市場は価格や品質でなく系列等が幅を利かす異質な市場という認識の下、シェアなどの約束を求めた。

トランプ政権が今後具体的にどのような政策を打ち出すのか現時点では不透明である。しかし、少なくとも2月の日米首脳会談では、過激な対日批判が飛び出すことはなく、強固な日米関係が強調された。また、2月末の議会演説は、落ち着いた論調の極めて「大統領らしい」もので、アフリカ系アメリカ人が自由を得た歴史に言及し、自由貿易を強く信じていることも表明した。

こうした動きに“a slice of hope”を見つけることができる。これから“a lot of hope”となればとても嬉しく思う。一切れであってもスイカは種が多いということも、大変期待がもてる。